

移植後の動き

◎水没記念碑除幕

昭和37年6月12日移植した桜の下で開催され、高碓氏、笹部氏、丹羽氏、藤井電発総裁をはじめダム建設により故郷を去った人達500人が集い涙の式典となった。そのとき「荘川桜」と命名された。

◎岐阜県指定天然記念物指定

昭和41年12月13日指定

◎太平洋と日本海を桜で結ぶ運動が始まる

荘川桜の移植と活着に感動した国鉄バスの車掌佐藤良二氏が、名古屋から金沢まで266kmに植樹を開始する。後に映画化、テレビドラマ化される。

◎ふるさと友の会活動

昭和45年から、水没移転した家の婦人が年に一度集まり旧交をしのぶ活動が始まる。

◎二世桜の配布

荘川桜の種子から実生苗を生産し、全国の学校や公共施設に配布しており、国内外で千本以上が植樹されています。

◎桜ネイチャーラン

平成5年から、佐藤良二氏の植樹構想を基に名古屋城から金沢の兼六公園まで258kmを走破するマラソンが毎年4月に実施されています。

◎図書や映像

「桜男行状記」「桜守」映画「さくら」「プロジェクトX」テレビドラマ等多く紹介されています。

保守管理

荘川桜の保守管理は、初代総裁の意志を継ぎ電源開発株式会社が行っており、手入れは今も庭正造園に委託されています。

お問い合わせ

荘川観光協会
Tel.05769-2-2272
Fax.05769-2-3255

高山市荘川支所
Tel.05769-2-2211

<http://www.shokawa.net/>

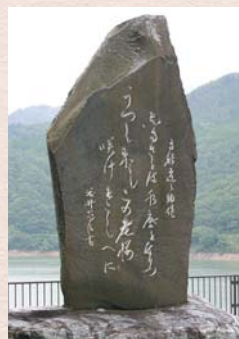
高碓翁のことば

「進歩の名のもとに、古き姿は次第に失われてゆく。だが、人の力で救えるものは、なんとかして残してゆきたい。古きものは古きがゆえに尊いものである」
高碓 達之助

歌碑



すすみゆく
御代のしるしと
うもれても
荘白川の名を
とこしえに
佐々木 信綱 作
高碓 達之助 書



ふるさとは
水底となりつ
うつし来し
この老桜
咲けとこしえに
高碓 達之助 作
藤井 崇治 書

全国に数多くのダムが建設されていますが、荘川桜のように、水没移住した人々の故郷を偲ぶ心に応える生きた桜樹が残された例はありません。
高碓翁の慈悲心と植物愛からの賜物なのです。皆でこの桜を守りましょう。



荘川まちづくり協議会